

## 平成 28 年度 「スラブ・ユーラシア地域（旧ソ連・東欧）を中心とした総合的研究」に関わる「共同研究班」 研究報告書

平成 28 年 7 月 25 日現在

研究課題名	スラブ・ユーラシアにおける記憶と文化に関する共同研究		
担当者	氏名		所属機関・職
	1	越野剛	北海道大学スラブ・ユーラシア研究センター・准教授
	2		
班員	氏名	所属機関・職	専門とする研究分野
	前田しほ	東北大学東北アジア研究センター・特任助教	ロシア文学
	研究テーマ		

## 研究成果の概要

本共同研究班担当者の越野と班員の前田は科研費基盤 B「社会主義文化における戦争のメモリー・スケープ研究：旧ソ連、中国、ベトナム」（平成 25-28 年度）において共同研究を行っている。この研究プロジェクトは、独ソ戦争、日中戦争、抗米戦争などの総力戦の記憶がそれぞれの地域での社会主義建設の過程で果たした役割を比較検討することを目的としており、「スラブ・ユーラシアにおける記憶と文化に関する共同研究」という共同研究班のテーマ設定とも合致している。共同研究班の予算により班員の前田は、ベルリンでの現地調査を実施することが可能となり、その成果は国際学会での研究報告など、科研プロジェクトの共同研究にも効果的に波及させることができた。

## 研究成果① ベルリンでの現地調査

5 月 6-11 日、前田がベルリンで現地調査を実施した。戦勝記念塔やホロコースト記念碑などモニュメントや博物館において、ドイツにおける戦争の記憶の様相について調査した。前田がこれまで研究対象としてきたのは独ソ戦争におけるソ連側の記憶であり、今回の調査によって敵であるドイツ側の資料を比較対照できるようになった。

## 研究成果② 国際学会

8 月 3-8 日に神田外語大学で開催された国際中欧東欧研究協議会（ICCEES）世界大会に参加し、越野は戦争映画における敵のイメージ、前田は戦争の記憶におけるジェンダーと身体の問題に焦点を当ててそれぞれパネルを組織した。

## 研究成果③ 国内研究会

11 月 21 日に明星大学で研究会を開催、戦争と博物館展示をテーマにして国内から 3 名の研究者を

招へいた。また、越野、前田を含む科研メンバー8名の間報告をレジュメのかたちでまとめた。その最終成果は単行本として刊行する予定である。

#### 研究成果④ 海外調査

3月5-11日、ベトナムで現地調査を実施した。ベトナム北部・中部・南部の3か所で博物館、烈士墓地、戦跡などを視察し、現地の研究者との研究懇談を行った。当該地域を専門としない研究者（ロシア研究者、中国研究者）の視点を入れることで、広い文脈で戦争の記憶を比較研究するための土台を準備することができた。

③に書いたように、本共同研究の最終的な成果は研究論集（単行本）として2017年度初めに刊行する予定である。

#### 主な発表論文等（雑誌論文、学会発表、図書 等）

前田しほ「スターリングラード攻防戦の記憶をめぐる闘争：象徴空間としての戦争記念碑」『思想』1096号、2015年、153-170頁。

Сихо Маеда, Нарратив и репрезентация женщины на войне. Миф войны и публицистика С. Алексиевич «У войны не женское лицо». В кн.: Дальний Восток, близкая Россия: эволюция русской культуры с евразийской перспективы. Белград: Логос, 2015.

#### 当該研究活動を基に応募中の研究プロジェクト（科研費等）

※枠を調整することは構いませんが、ページは追加しないでください。